

News Release

2024年9月11日

この資料は BASF 本社(ドイツ)が 2024 年 8 月 29 日に発表した英語のプレスリリースを BASF ジャパンが日本語に翻訳・編集したものです。

BASF のパフォーマンスマテリアルズ事業本部、お客様と持続可能な未来を共創

- **カーボンマネジメント:** あらゆるスコープでの排出量削減に対する徹底的な取り組み
- **認証:** 大半の拠点が REDCert² と ISCC+ の認証を取得済み
- **サーキュラリティ:** 2030 年までに循環型製品の売上高を 20%に増やすことを公約
- **共創:** 未来のソリューションを市場に投入

BASF(本社:ドイツ ルートヴィヒスハーフェン)のパフォーマンスマテリアルズ事業本部は、2050 年までにカーボンニュートラルを達成するための戦略的ロードマップを示し、サーキュラーエコノミーへの道のりにおける重要なマイルストーンを明らかにしました。これにより、革新的でカスタマイズされたプラスチックに関する BASF の材料ノウハウを結集した本事業本部は、プラスチックにおいて切望されているサステナビリティ変革の最前線に位置することになります。

BASF のパフォーマンスマテリアルズ事業本部プレジデントであるマーティン・ユングは、次のように述べています。

「私たちは、カーボンフットプリントが低く、多様な循環型ソリューションを提供することで、お客様の変革を実現したいと考えています。また、より資源効率に優れたプラスチックを製造する方法から、プラスチックの利用を改善する方法、プラスチックに新た

な命を吹き込む方法に至るまで、プラスチックのライフサイクル全体を通じて、より持続可能なプラスチックづくりに取り組んでいます。私たちはこの変革を BASF のプラスチック・ジャーニー (#ourplasticsjourney) と呼んでいます。今回のロードマップによって、私たちはこの変革をより迅速に進めるための重要な基盤を築いていきます。」

カーボンニュートラルと気候保護に向けた取り組みを加速

BASF は、2050 年までにカーボンニュートラルを達成することを目標に、2030 年までに CO2 排出量を 2018 年比で 25%削減(スコープ 1 と 2[1])、スコープ 3.1[2]については 2022 年比で 15%削減するという明確な目標を掲げています。当社のカーボンマネジメント戦略の重要な第一歩は、グリーン電力の使用を増やすことです。

「2023 年にはすでに、パフォーマンスマテリアルズ事業本部の世界各地の拠点の 3 分の 1 以上がグリーン電力で稼働しており、2025 年までに全拠点を完全にグリーン電力に切り替えるべく、絶え間ない努力を続けています。」と、BASF のパフォーマンスマテリアルズ事業本部プレジデントであるマーティン・ユングは述べています。

グリーン電力は、とりわけスコープ 3.1 において、BASF のバリューチェーンの初期段階でも重要な役割を果たしています。BASF のサプライヤーの 1 社である 3B Fibreglass 社は、熱可塑性ポリマーや熱硬化性ポリマーの補強材として使用されるガラス繊維を供給しています。3B Fibreglass 社は、ソーラーパネルを利用して発電することで、CO2 排出量を大幅に削減しています。その結果、ガラス繊維の製品カーボンフットプリントが削減され、BASF の製品、そして最終的には BASF のお客様へ還元されます。これは、すべてのステークホルダーがサステナビリティに取り組むことで、サーキュラーエコノミーが実現する可能性を示しています。

認証済みの持続可能なソリューションでお客様をサポート

BASF は、国際持続可能性カーボン認証 (ISCC) PLUS と REDCert² で、世界各地の製造拠点の認証を積極的に行っています。パフォーマンスマテリアルズ事業本部の大半の拠点は、少なくとも 1 つの制度で認証を受けており、2024 年末までに全地域でさらに多くの拠点の認証が行われる予定です。

これらの制度は、バイオマスバランス (BMB) 製品に割り当てられる再生可能原料の量を認証するものです。こうした再生可能原料は、バリューチェーンの初期段階にお

いて、生産に必要な化石原料の一部を代替します。このプロセスにより、従来と同一の製品品質と特性が保証されます。そのため、お客様はこれらの原料をドロップインソリューションとして使用することができます。廃タイヤや混合プラスチック廃棄物由来の熱分解油のようなケミカルリサイクル原料も同様です。

BASF のパフォーマンスマテリアルズ事業本部、サステナビリティ責任者のマティアス・シャイビッツは、次のように述べています。

「現在、当社の製品ポートフォリオの大半は、再生可能原料をベースとし、製品カーボンフットプリントを大幅に削減、あるいは正味ゼロにした製品としてすでに提供されています。私たちは、お客様がサステナビリティ目標を達成し、多様なサーキュラリティオプションを提供できるよう、できるだけ早い段階からサポートしたいと考えています。」

より循環性の高い製品ポートフォリオに向けた意欲的な目標

BASF は、製品ポートフォリオにおける循環型原料の使用を増やすため、最も有望なマスバランスソリューションを探求し、あらゆる産業のお客様の期待に応えています。当社のサステナビリティ・ジャーニーにおいて、BASF パフォーマンスマテリアルズ事業本部は、2030 年までにサーキュラー・エコノミーの売上高を少なくとも 20%に増やすことを公約しています（循環型原料によって少なくとも 20%の化石原料の代替をサポートする製品を通じて）。

幅広い商用持続可能なソリューションと共創

BASF パフォーマンスマテリアルズ事業本部は、その多様なバリューチェーンにおけるお客様やパートナーとの共創を、プラスチック業界におけるサステナビリティへの取り組みの要と考えています。

「私たちにとって、シリーズ化が可能な商用化された持続可能なソリューションをお客様に提供し、現在可能なことについてお客様にインスピレーションを与えることは重要なことです。」と BASF のパフォーマンスマテリアルズ事業本部プレジデントであるマーティン・ユングは加えて述べています。

サーキュラリティは、製品の設計段階に深く組み込む必要があります。その一例として、BASF パフォーマンスマテリアルズ事業本部は先ごろ、簡素化されたスケラブ

ルなマテリアルリサイクルを実現する革新的なポリウレタン (PU) フォーム技術を開発しました。この新技術を使用した最初のステアリングホイールのプロトタイプが、先日欧州と中国で公開されました。

シーメンスの SIRIUS 3RV2 サーキットブレーカーは、バリューチェーンの最初の段階で化石原料を農業廃棄物などの再生可能資源に由来するバイオメタンで置き換えたバイオマスバランス・プラスチックの部品を採用した、初の電気安全製品です。同様に BASF は、ケミカルリサイクルプロセスに由来するプラスチックを使用した Steelcase の Flex Perch Stool にも共同で取り組み、焼却や埋め立ての防止に貢献しています。また、バイオベースの原料とリサイクル原料を補完的に使用するケースもあります。メルセデス・ベンツと共同開発した、メルセデス・ベンツ S クラスのドアハンドルとクラッシュアブソーバーでは、バージン材料の特性を持つプラスチックの製造において、化石原料の代わりに廃タイヤから生成される熱分解油と有機廃棄物由来のバイオメタンを組み合わせ使用しています。

また、BASF は包装業界向けに、再生可能原料の使用を増やす方法も提供しています。BASF の認証済みの堆肥化可能なバイオポリマーのポートフォリオに、バイオマスバランス・グレードが加わりました。有機的にリサイクル可能であることに続いて、製品カーボンフットプリント (PCF) はそれぞれの標準グレードよりも 60% 低くなっています。

さらに、製品カーボンフットプリント (PCF) を大幅に抑えたエンジニアリングプラスチックとポリウレタンの包括的なポートフォリオもご用意しています。イソシアネートなどの 低 PCF 製品の中には、カーボンフットプリントがゼロに近いものもあり、プラスチックによるサステナビリティの未来がすぐそばにあることを改めて証明しています。

詳細については、https://plastics-rubber.basf.com/global/en/performance_polymers/sustainability.html (英語) をご覧ください。

[1] スコープ 1 は、直接的な CO₂ 排出量を示しています。これは、BASF の拠点にある排出源から排出されるもので、例えば、自社の生産工場や、電力や蒸気を生成するための工場が含まれます。スコープ 2

は、当社が製造のために購入するエネルギーを生成する際に、当社のサプライヤーから排出される間接的な CO₂ 排出量に関するものです。

[2] スコープ 3.1 の排出量は、当社がサプライヤーから購入する商品やサービスに関連するものです。

※このプレスリリースの内容および解釈については英語のオリジナルが優先されます。

■BASF について

BASF (ビーエーエスエフ) は、ドイツ ルートヴィヒスハーフェンに本社を置く総合化学会社です。持続可能な将来のために化学でいい関係をつくることを企業目的とし、経済的な成功とともに環境保護と社会的責任を追究しています。また、全世界で約 112,000 人の社員を有し、世界中のほぼすべての産業に関わるお客様に貢献しています。ポートフォリオは、6 つの事業セグメント(ケミカル、マテリアル、インダストリアル・ソリューション、サーフェステクノロジー、ニュートリション&ケア、アグロソリューション)から成ります。2023 年の BASF の売上高は 689 億ユーロでした。BASF 株式はフランクフルト証券取引所(BAS)に上場しているほか、米国預託証券(BASFY)として取引されています。BASF の詳しい情報は、<https://www.basf.com> をご覧ください。

■BASF のパフォーマンスマテリアルズ事業本部について

BASF のパフォーマンスマテリアルズ事業本部は、プラスチックに求められる持続可能性への変革の最前線にいます。BASF の製品は、トランスポーターション、消費財、インダストリアルアプリケーション、建築・建設という 4 つの主要産業分野にイノベーションをもたらすため、世界中のお客様と共同で開発をすすめています。私たちの研究開発は、プラスチックに関するすべての工程(プラスチックジャーニー)である MAKE(製造)、USE(使用)、RECYCLE(リサイクル)に焦点を当てています。製造段階では、製品の設計から原材料の選択、製造工程に至るまで、プラスチックの製造方法を改善します。使用段階では、軽量性、堅牢性、耐熱性といったプラスチックの強みを強化します。製品のライフサイクルの終段には、循環型経済を実現するためにどのようにプラスチックジャーニーを終了させるかを検討する「リサイクル」段階があります。2023 年、パフォーマンスマテリアルズ部門の世界売上高は 72 億ユーロを達成しました。詳しい情報は、<https://www.performance-materials.basf.com> をご覧ください。